

誰もが住みたくなる温かみ
のある街を目指して
～あったかタウンつるまき～

秦野市鶴巻温泉街再活性化構想

平成22年2月

秦野市

目次

1. はじめに	1
2. 現状と課題	4
3. 鶴巻温泉北口周辺地域の目指す姿	17
4. 施策の展開	20
5. 構想の推進に向けて	37

1. はじめに

(1) 構想の趣旨

人口減少・少子高齢化が進む我が国において、観光は地域における消費の増加や新たな雇用の創出などの幅広い経済効果や地域の方々が誇りと愛着を持つことができる活力に満ちた地域社会の実現をもたらすことから注目されるようになってきました。



こうした中、国は平成19(2007)年1月に観光立国推進基本法を施行するとともに、同年6月には、観光立国に向けての総合的かつ計画的な推進を図るため、観光立国推進基本計画を閣議決定しました。さらに、神奈川県では、平成21(2009)年9月に神奈川県観光振興条例を制定し、現在、この条例に基づく観光振興計画を策定中です。

本市においても、今後の観光施策の方向づけと計画的な施策の実現を目指した新たな観光振興の指針となる秦野市観光振興基本計画(仮称)を策定する予定です。

本市の主要観光地の一つである鶴巻温泉は、丹沢山麓に湧く温泉としては比較的歴史が古く、明治22(1889)年頃井戸水が塩分を含んでいること、また渋味が強いことから飲料水に適さず、また灌漑用にも使えないので浴用にしたのが始まりとされています。大正時代には、平塚駅から秦野方面に馬車などが通じていたことから、大山詣の客が多く立ち寄る観光地として栄えていました。

現在も、都心に近い温泉地として広く周知され、親しまれていますが、昭和60(1985)年に14軒あった旅館は年々減少し、現在は3軒のみとなり、廃業した旅館跡には、都心への通勤圏として便利なことから高層マンションが立ち並び、温泉地としての風情が失われつつあります。

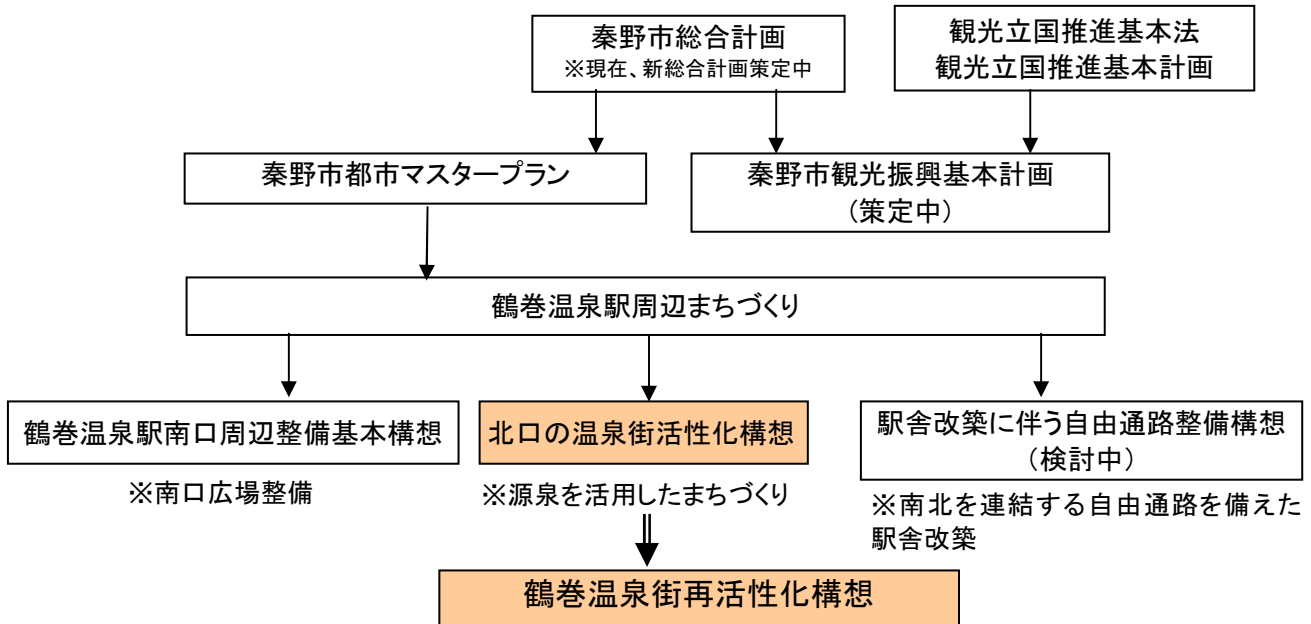
こうした状況から、観光地としての鶴巻温泉の将来を展望したとき、温泉街に魅力を持たせ、社会の動向や温泉客のニーズに配慮しながら、再活性化に取り組み、鶴巻温泉という伝統と文化、風情を将来に引き継ぐため、行政と地域が連携する時期にきています。

この第一歩として、湯量などに期待が持てる大深度の源泉を確保し、この新たな源泉の観光資源としての価値を最大限に引き出すことにより鶴巻温泉街の再活性化に向けた魅力あるまちづくりを目指すため、鶴巻温泉街再活性化構想(仮称)を策定するものです。

(2) 構想の位置付け

この構想は、これまでのまちづくりに関する地域住民の協議に配慮するとともに、今後進められる鶴巻地区全体のまちづくり構想の一部を担うものとして、以下のとおり位置づけ上位計画・関連計画との整合を図りながら源泉活用、北口周辺まちづくりに係る指針とします。

☆上位計画・関連計画体系図



ア 秦野市総合計画における位置づけ

鶴巻温泉周辺は、商業機能等の拠点であると同時に、温泉地という地域特性を持ち、市内外から多くの観光客が訪れています。主な取り組みとしては、「鶴巻温泉街再整備に向けた検討」やあじさい祭、鶴巻温泉春まつり、延命地藏祭りなど「地域資源を活用したまちづくり」が位置づけられています。

イ 鶴巻温泉駅周辺まちづくりにおける位置づけ

地域の特色を活かし、市民が安全で快適な、そして活力あるまちづくりを進めるためには、鶴巻温泉駅を中心に、駅北側の温泉街を含む商業地域と、駅南側の近隣商業地域を自由通路等で有機的に結びつけることにより、一体的かつ立体的な賑わいのあるまちづくりを推進していく必要があります。

そこで、「鶴巻温泉駅南口周辺整備基本構想」、「北口の温泉街活性化構想」、「駅舎改築に伴う自由通路整備構想」の3つの『まちづくり基本構想』を定め、鶴巻温泉駅周辺地区における総合的なまちづくり施策を展開するものです。

(3) 構想の期間

構想期間は、平成22(2010)年度から平成32(2020)年度までの11カ年とします。実施時期について、「当面の取組み」は、概ね平成27(2015)年度までに実現を目指す取組み、「中長期的取組み」は、概ね平成32(2020)年度までに実現を目指す取組みとします。また、策定中の秦野市新総合計画(仮称)の基本計画の期間に合わせ、見直しを行います。

(4) 構想の区域

構想区域は、次の図のとおりとします。

構想区域図



2. 現状と課題

(1) 秦野市の概要

ア 位置と地勢

秦野市は、神奈川県央の西部に位置し、市域は、東西約 13.6km 南北約 12.8km、面積約 103.61 km² で、東部は伊勢原市、西部は松田町と大井町、南部は中井町と平塚市、北部は山北町、清川村及び厚木市に接しています。市の中心部は、東京駅から約60キロメートル、横浜駅から約37キロメートルの距離にあります。



北方には神奈川県の屋根と言われている丹沢連峰が連なり、南方には渋沢丘陵と呼ばれる台地が東西に走り、また市の中心部辺りは、県下で唯一の典型的な盆地を形成しています。

市内を流れる河川の多くは、丹沢連峰の稜線の合間から発しており、盆地内には塔ノ岳からの水無川、春嶽山からの金目川水系の河川により複合扇状地が形成され、これが今日の市街地となっています。扇状地は、丹沢山地から搬出され堆積した砂礫層と、箱根火山等から飛来した火山灰が基盤の上で互層構造を形成し、この層の厚さは深いところで 200mと推定されます。

このような地形的特質から、秦野盆地は地下水を豊富に蓄えており、これらの地下水は盆地内の各所で湧き出し、これが秦野盆地湧水群として全国名水百選のひとつに選ばれています。

気温は平成20(2008)年の平均気温は 15.3 度(最高 34.8℃、最低 -3.5℃)と比較的温暖で、みかんの北限域、りんごの南限域といわれる地域に位置しています。

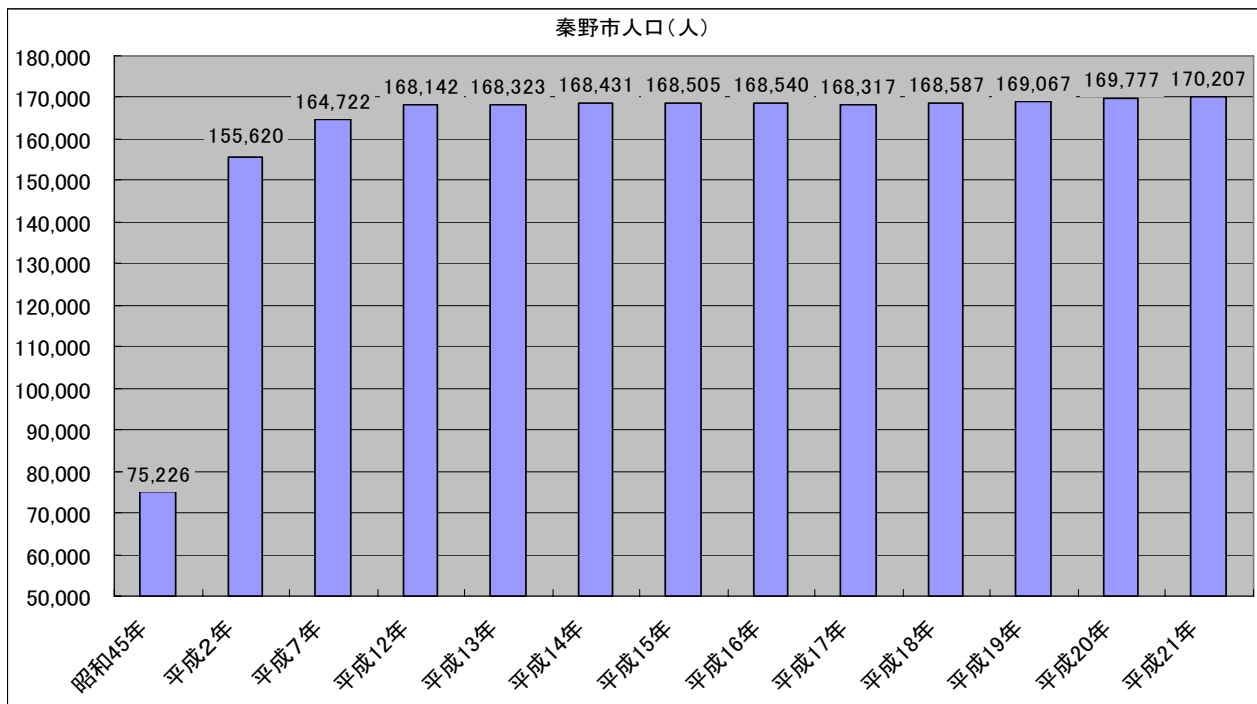
鶴巻地区は、秦野市の東の玄関口として位置し、首都圏に近いという条件下にあります。

イ 人口

人口は、昭和30(1955)年の市制施行以降、平成12(2000)年までは一貫して増加傾向にあり、168,142 人となりました。しかし、少子高齢化を背景に、人口の増加傾向は鈍化し、平成12(2000)年から平成15(2003)年までは微増となり、平成16(2004)年から平成17(2005)年までは一旦微減に転じ、平成18(2006)年からは再び微増傾向となり、平成21(2009)年(10月1日現在)では、17万人を突破し、170,207 人となりました。これを約40年前の昭和45(1970)

年の 75,226 人と比較すると、人口規模は約 2.3 倍となっています。

◎ 秦野市人口の推移(各年10月1日現在)



資料:平成20(2008)年度版統計要覧『統計はだの』

また、年齢別の人口は、14 歳以下(年少人口)及び 15~64 歳(生産年齢人口)の人口が減少する一方、65 歳以上の老人人口が年々増加しています。

総人口及び年齢3区分人口割合の推移

区分	昭和 60 年	平成2年	平成7年	平成 12 年	平成 17 年	平成 20 年
総人口	141,803 人	155,620 人	164,722 人	168,142 人	168,317 人	169,777 人
14 歳以下	23.8%	18.9%	15.7%	14.1%	13.1%	12.8%
15-64 歳	69.4%	72.9%	74.3%	73.5%	71.1%	69.3%
65 歳以上	6.8%	8.2%	10.0%	12.4%	15.8%	17.9%

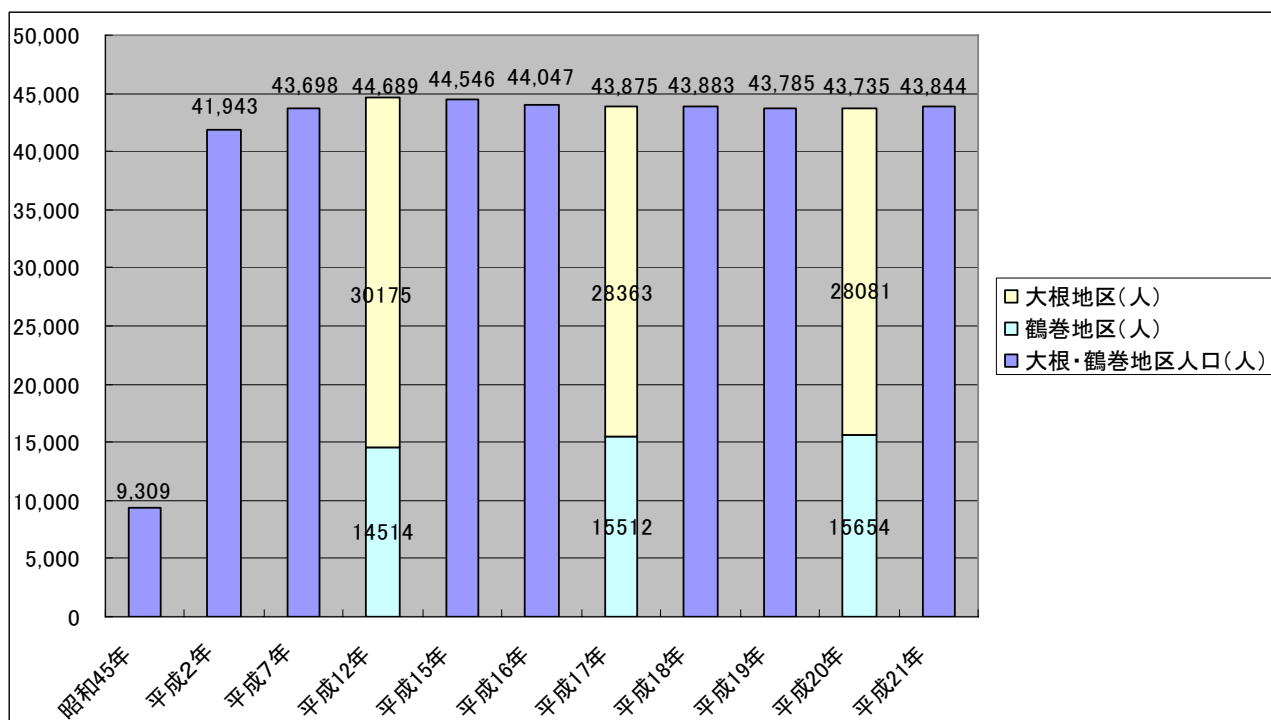
資料:国勢調査、年齢別人口統計調査
※各年10月1日現在 年齢不詳分は除く

大根・鶴巻地区には小田急線東海大学前駅と鶴巻温泉駅の 2 駅が立地し、東海大学湘南校舎が隣接しています。人口の推移について、昭和45(1970)年から平成12(2000)年までは市全体と同様、増加傾向にあり、平成12(2000)年においては、44,689 人となり、市内の地区では大根・鶴巻地区が最も人口が多い地区となり、市全体の 26.6%の人口を占めています。

昭和45(1970)年を1.0とした人口の水準をみると、最も人口が多い大根・鶴巻地区において、人口の増加が目立っており、昭和45(1970)年から平成20(2008)年にかけて、人口規模は約4.7倍となっています。これは、大根・鶴巻地区において進められたマンション開発、戸建住宅等による人口増であると考えられます。

平成12(2000)年から平成21(2009)年までの人口の推移について、市全体では微増していますが、大根・鶴巻地区については微減しています。これは、景気の長期低迷や都心回帰現象、マンション需要の低迷、さらに、昭和50年代、60年代に大根・鶴巻地区へ転入した世代の高齢化などが主な要因と思われます。

◎ 大根・鶴巻地区 人口の推移(各年10月1日現在)



資料:平成20(2008)年度版統計要覧『統計はだの』

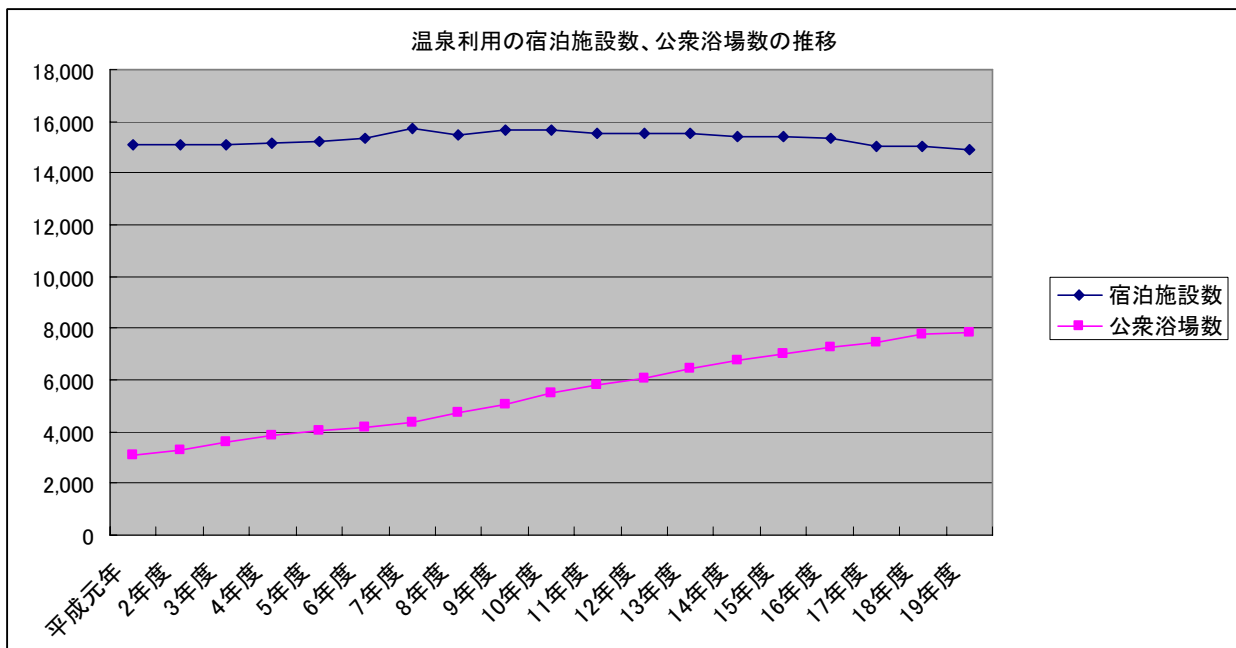
(2) 現状と課題

ア 現状

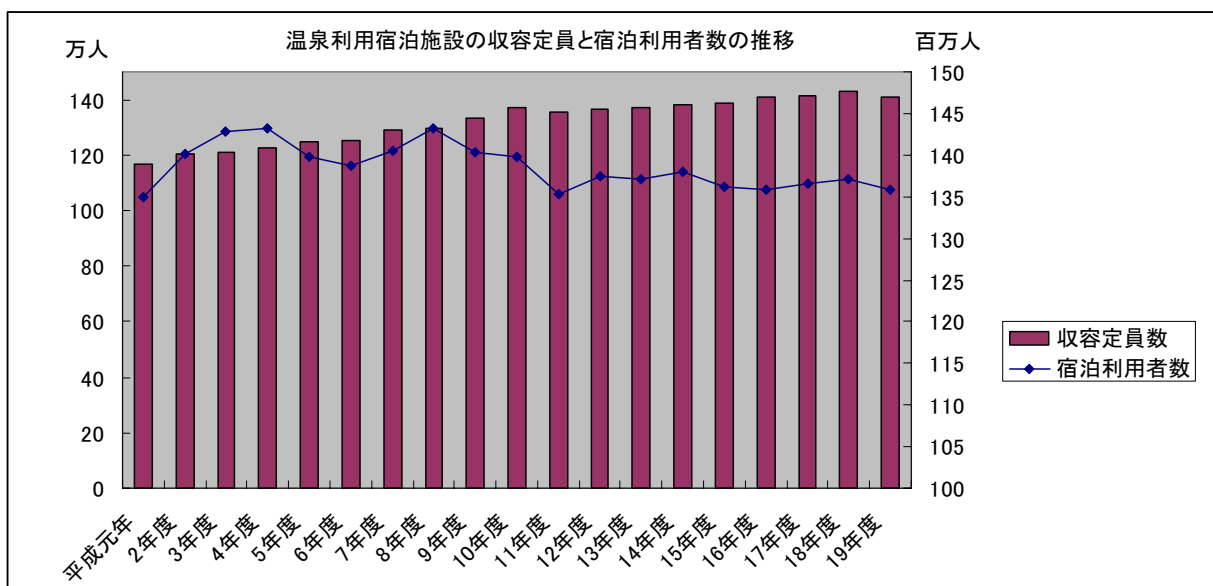
(ア) 温泉施設の状況

a 全国

全国の温泉施設の推移についてみると、温泉旅館の数は平成7年をピークに減少していますが、温泉利用の公衆浴場は平成19年まで増加しています。また、温泉利用宿泊施設の延べ利用者数は平成4年まで増加しており、その後、平成8年から平成19年まで減少気味ですが、ほぼ横ばいで推移しています。



資料:環境省ホームページ「温泉に関するデータ」より作成



資料:環境省ホームページ「温泉に関するデータ」より作成

b 鶴巻温泉

本市の南東部にある鶴巻温泉は、東京、横浜からの会社関係の宴会客や家族連れ、グループの利用が多い大都市近郊の温泉地でありましたが、全国的な傾向と同様に昭和60(1985)年に14軒あった旅館は年々減少し、現在は「陣屋」「大和旅館」「梵天荘」の3軒となっており、日帰り温泉として、平成13(2001)年に営業を開始した「弘法の里湯」があります。



(イ) 既存源泉の状況

鶴巻温泉地区には、5つの源泉があり、現在、利用している又は利用できるものは「旧光鶴園」「陣屋」「鶴巻温泉病院」「旧ゆたか」の4源泉です。また、現在、営業している鶴巻温泉の旅館3軒のうち、源泉を利用している旅館は、「陣屋」のみとなっています。

a 源泉の状況

(丸付き数字は上図における位置)

区分	①秦野1号	②秦野12号	③秦野16号	④秦野17号
深度	50m	45.6m	84m	500m
揚湯量	20ℓ/分	40ℓ/分	23ℓ/分	303ℓ/分
温度	約 26.0℃	約 21.0℃	約 21.3℃	約 37.3 度
利用状況	動力	動力	自噴	自噴
泉質	ナトリウム・カルシウム・塩化物泉			
成分	<ul style="list-style-type: none"> ・ナトリウム 1, 150mg/ℓ ・カルシウム 1, 360mg/ℓ ・塩素イオン 3, 860mg/ℓ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ナトリウム 244mg/ℓ ・カルシウム 254mg/ℓ ・塩素イオン 805mg/ℓ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ナトリウム 867mg/ℓ ・カルシウム 624mg/ℓ ・塩素イオン 2, 550mg/ℓ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ナトリウム 952mg/ℓ ・カルシウム 1,673mg/ℓ ・塩素イオン 4, 179mg/ℓ

資料:神奈川県温泉地学研究所報告第28巻 第2号(平成9年)

湧出量は、雨等により浅層部分の地下水の増減により、圧力が変化し、50m付近の源泉に影響が及ぶ季節変動があるため、増加・減少の傾向を分析することはできません。

揚湯量は、1号源泉が 20ℓ/分、12号源泉が 40ℓ/分ですが、温泉法に基づく動力装置の設置許可により最高限量が制限されており、これ以上揚湯できない状況です。

1号源泉を利用している「弘法の里湯」は、揚湯量(20ℓ/分)が充分でないため、湯水等を考慮すると、湯量を安定的に確保することが課題となっております。また、温泉客からの要望が多い源泉かけ流しについては実施できない状況にあり、源泉かけ流しを行うには、計算上約 250ℓ/分の湯量が必要になります。

泉質は、源泉に含まれているカルシウムは牛乳以上といわれ、世界でも有数の含有量を誇り、湯冷めし難く、柔らかい肌触りが特徴です。飲泉すれば胃腸病への効果もあるとされています。

源泉掘削について、神奈川県温泉地学研究所の研究成果や意見を参考にすると、源泉は断層の裂け目に溜まること、候補地の周辺に地下水の大きな流れがあることなどから判断し、源泉が湧き出る可能性がかなり高いと考えられます。

b 地形概要

鶴巻温泉一帯は、西側の山地と鈴川及びその支流が開折した沖積平野の山麓に分布する洪積台地上に位置します。洪積台地は、台地面下に分布するローム層によって区分されており、源泉掘削予定地は「伊勢原面」に区分され、鶴巻断層が存在しています。

c 温泉準保護地域

鶴巻温泉には、かつて17の温泉源が開発されましたが、鶴巻温泉全体の総湧出量が減少したことで温泉源保護の必要が生じたため、昭和42(1967)年9月1日に温泉準保護地域(神奈川県温泉保護対策要綱)に指定されました。

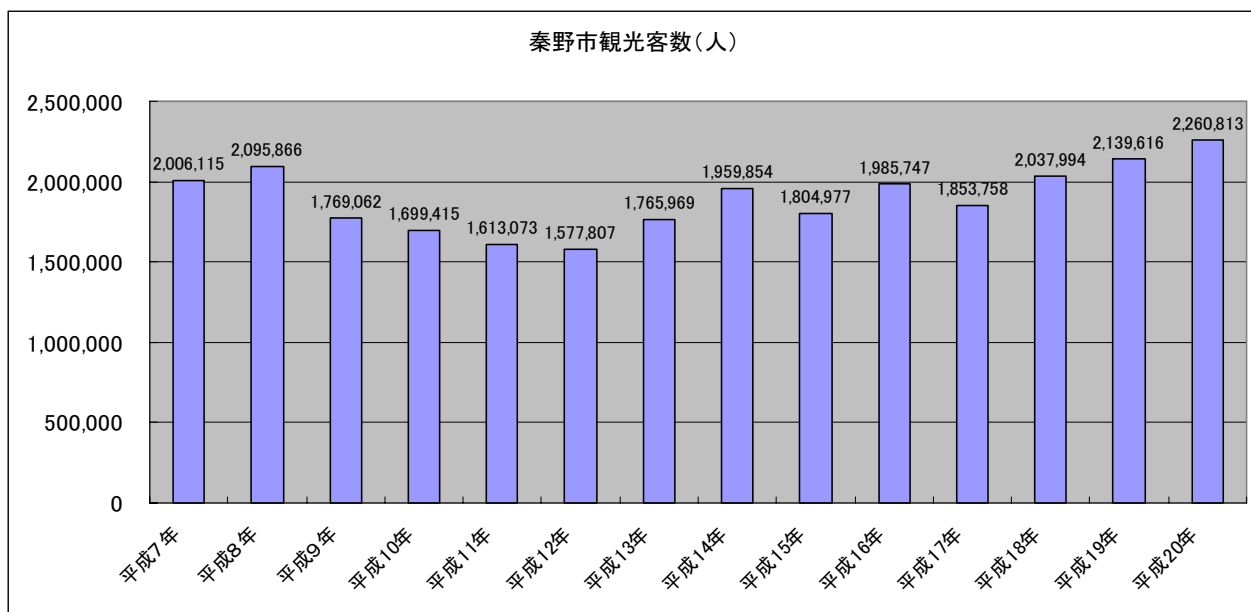
d 地質概要

鶴巻温泉一帯の地盤構成は、表層からローム層が出現し、「新期ローム」と呼ばれる立川・武蔵野ローム層及び「後期ローム」と呼ばれる下末吉ローム担当層までの、未固結の火山灰性堆積物が分布するとされています。これらのローム層は、古箱根火山から富士火山等の火山噴出物起源の堆積物であり、そのときの火山活動の結果であるため、均一な堆積物ではありません。これらローム層の基盤を成すのは、丹沢山地に広く分布する新第三紀中新世の「丹沢層群」の「煤ヶ谷亜層群」、「大山亜層群」、「塔ヶ岳亜層群」であり、火山礫凝灰岩から凝灰岩を主体とする地層です。これらの地層は堆積年代が古いため、完全に固結しており、水理地質的基盤と考えられます。丹沢層群は、堆積終了後地殻変動の影響を受け、走向は北東から北北東方向に、東に65～70度傾斜の構造を持っています。

(ウ) 観光客数の推移

a 本市の観光客数

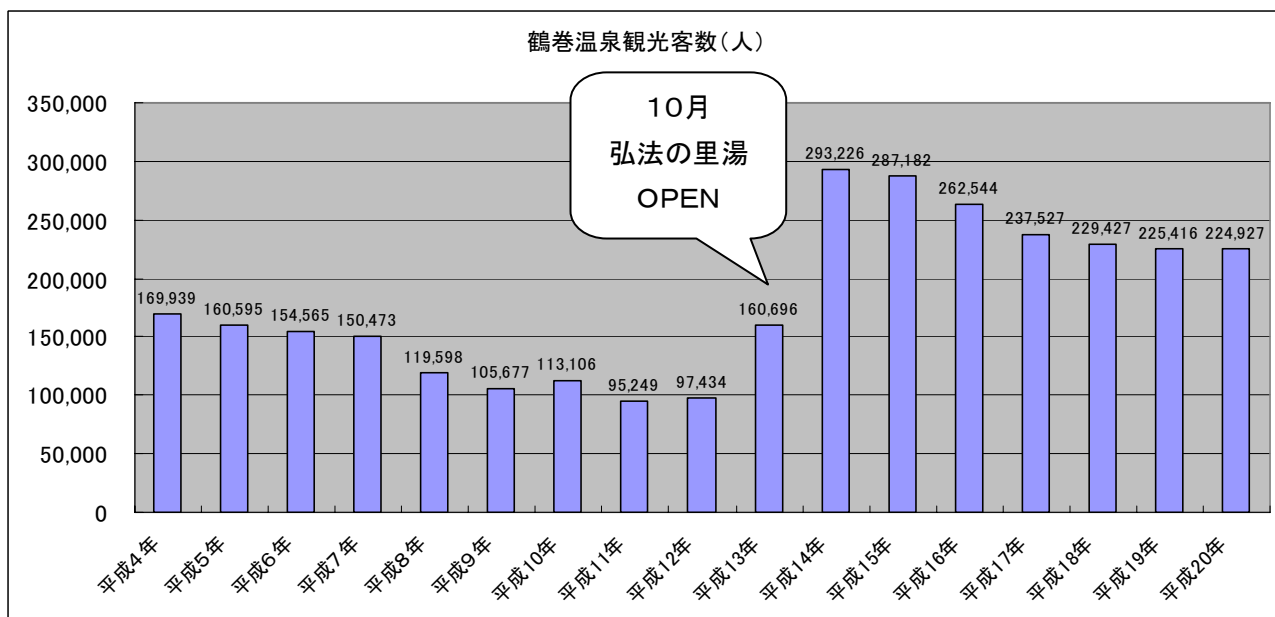
秦野市の観光客数は、平成12(2000)年の約157万人を底値として、それ以降は微増傾向にあります。自然志向の高まりや団塊世代の余暇として、丹沢への登山者が増加しており、また、平成12(2000)年に整備した田原ふるさと公園、平成9(1997)年に整備された戸川公園の利用者及び鶴巻温泉の観光客が増加しています。



資料:神奈川県入込観光客調査

b 鶴巻温泉の観光客数

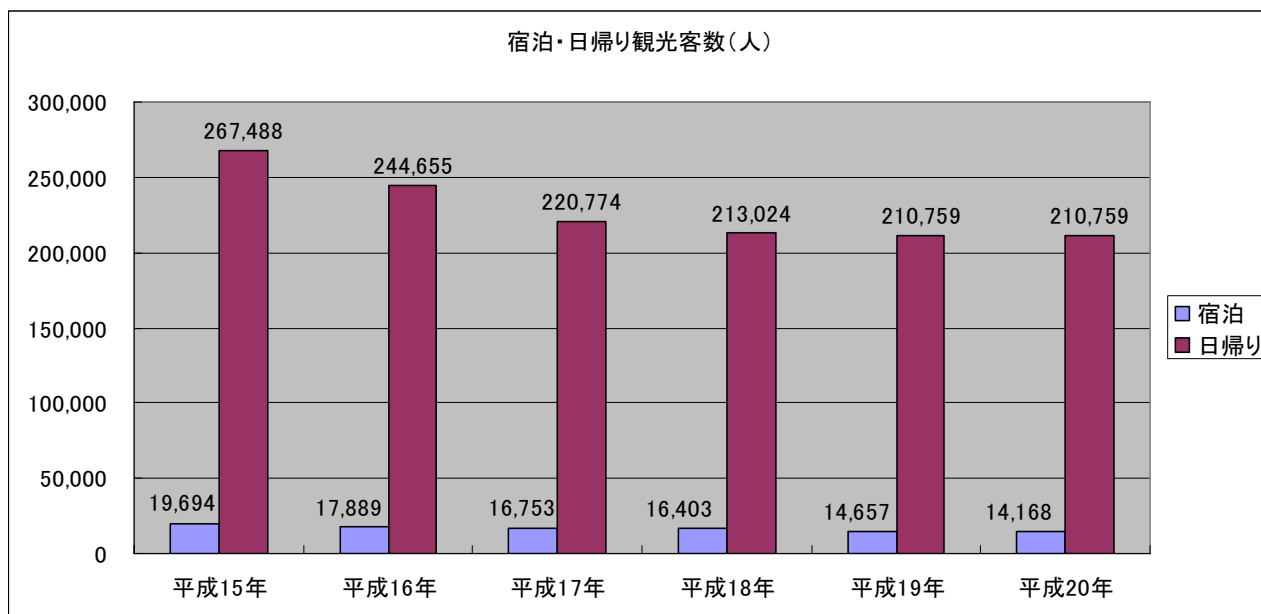
鶴巻温泉の観光客数は、平成11(1999)年度には年間10万人を下回り、平成4(1992)年度との比較では4割以上減少しました。その後、弘法の里湯が営業を開始したことにより、平成13(2001)年度以降急増しましたが、近年は減少傾向にあります。



資料:神奈川県入込観光客調査

c 鶴巻温泉の宿泊・日帰り観光客数

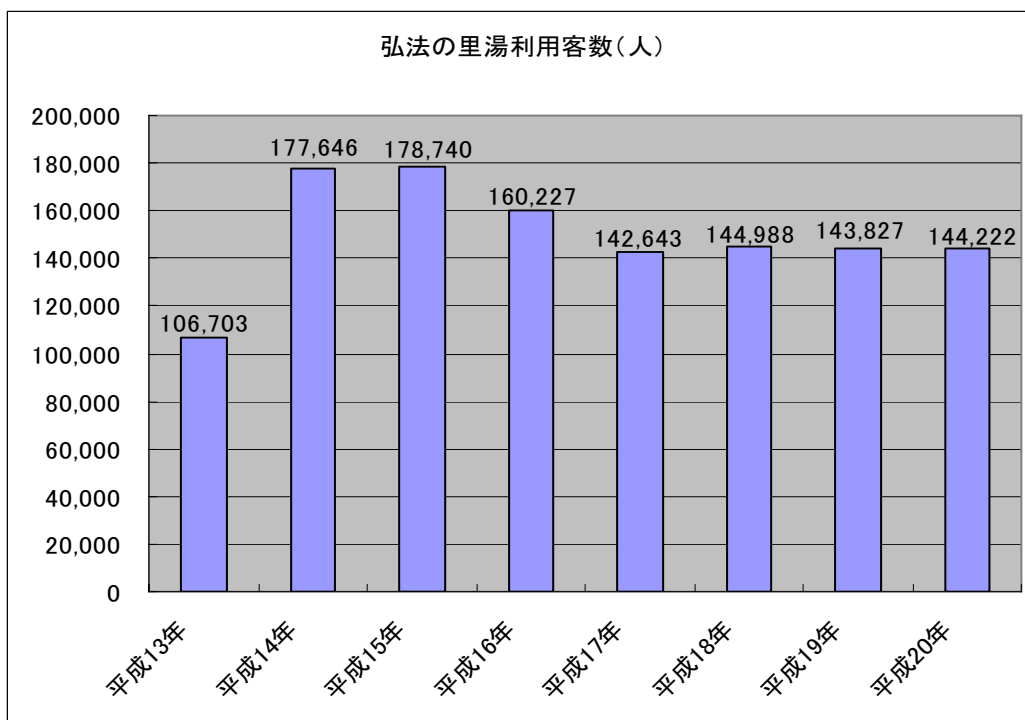
宿泊客、日帰り客共に減少傾向にあります。



資料:神奈川県入込観光客調査

d 弘法の里湯利用客数

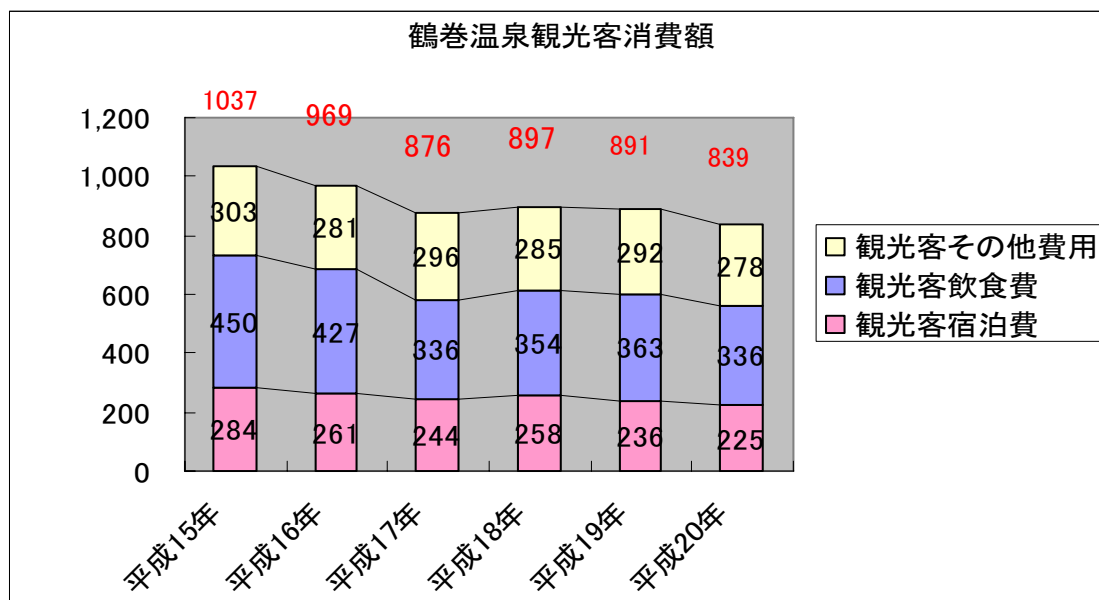
里湯の利用客数は、開設翌年の平成15(2003)年をピークに減少しているものの、近年は横ばい傾向にあります。平成19(2007)年11月には、利用者が100万人を突破し、当初12年間かかると予測していた目標を6年で達成しました。鶴巻温泉観光客数の6割以上が「弘法の里湯」の利用客となっています。



資料:平成20(2008)年度版統計要覧『統計はだの』

(エ) 鶴巻温泉の観光客消費額

鶴巻温泉における観光客の消費額は、平成15(2003)年から平成20(2008)年まで減少傾向にあり、平成20年に対し、平成15年比で81%程度になっています。市全体でも減少傾向にあります。

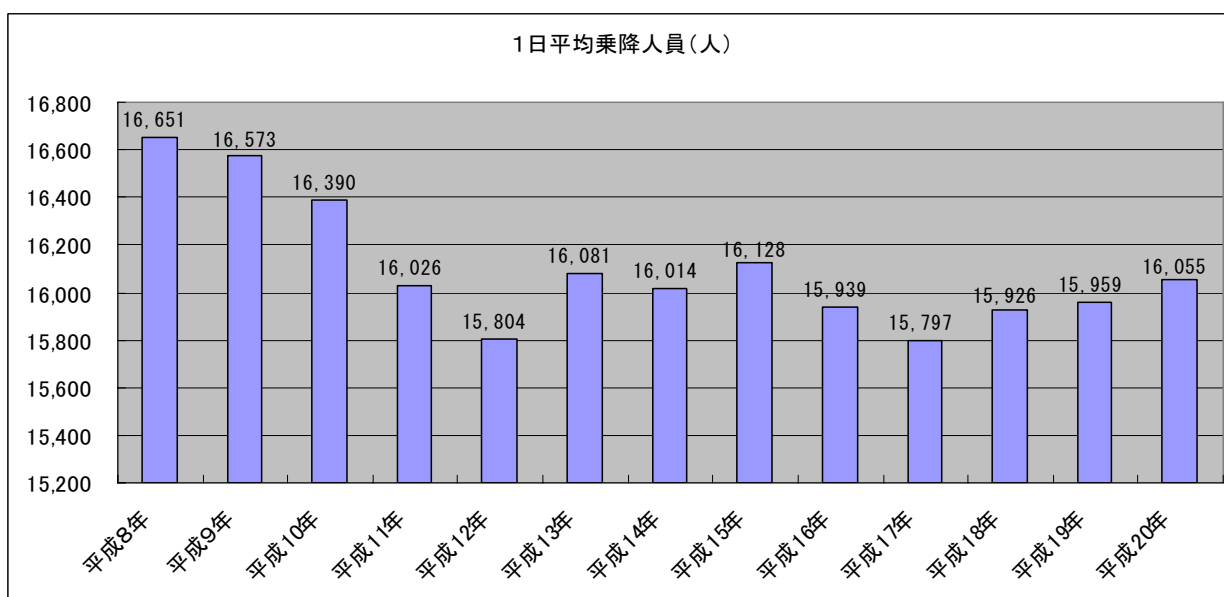


(単位:百万円)

資料:神奈川県入込観光客調査

(オ) 鶴巻温泉駅の鉄道乗降客数

鶴巻温泉駅の1日平均乗降客数は、平成12(2000)年を底値としてから平成13(2001)年の弘法の里湯のオープンを機に、一時上昇しましたが、その後は、1万6千人を境として、増減しています。



資料:平成20(2008)年度版統計要覧『統計はだの』

イ 鶴巻温泉に対する市民等の意向

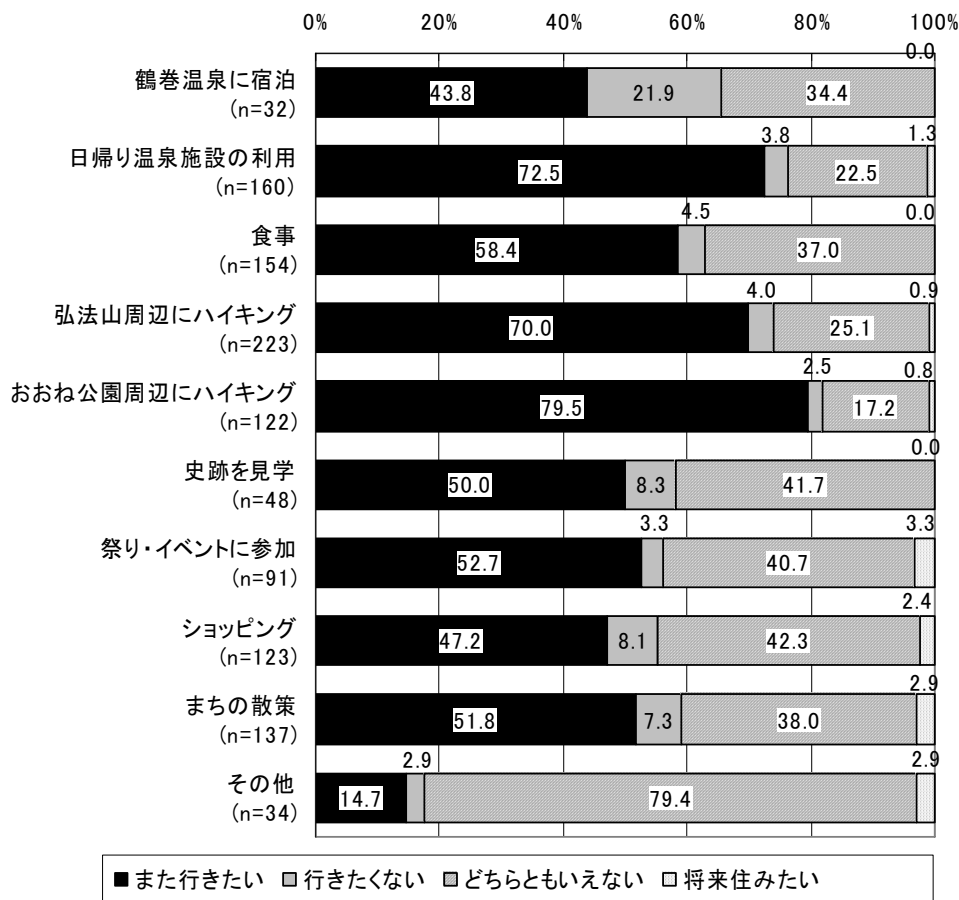
本市の東の玄関口である鶴巻温泉は、本市の重要な観光資源であります。市民等及び観光客は何を求めているのか、下記アンケートから考察します。

(ア) 市民等へのアンケート

☆平成21年度秦野市Webアンケート調査

(平成21(2009)年5月21日～25日実施 秦野市のネット調査会社の登録者400人)

◎鶴巻温泉に行ったことのある方351人中、鶴巻温泉での経験に対する感想は？



《また行きたい》では、「おおね公園周辺にハイキング」が79.5%と最も比率が高くなっています。次いで、「日帰り温泉施設の利用」72.5%、「弘法山周辺にハイキング」70.0%と続きます。ほとんどの項目でリピート率は50%前後と比較的高い比率となっています。ただし、「鶴巻温泉に宿泊」はサンプル数が少ないものの、《行きたくない》が21.9%となっていますが、対象が市内在住者ということが要因と考えられます。

(イ) 観光客等へのアンケート

☆丹沢大山へ行こう！（丹沢大山観光キャンペーン推進協議会）

（平成21（2009）年3月13日実施 小田急新宿駅西口地下コンコース配布 983人）

◎丹沢大山地域に行ったことのある方643人中、(回答123人)今後訪れてみたい場所は？

厚木市	11
厚木市	4
七沢温泉	3
宮ヶ瀬	4
伊勢原市	42
大山	30
伊勢原市	8
阿夫利神社	2
日向薬師	2
秦野市	11
秦野市	5
塔ノ岳	1
鶴巻温泉	1
頭高山	1
弘法山	1
ヤビツ峠	1
四十八瀬川	1
松田町	2
松田町	2

山北町	22
丹沢山	7
山北町	3
丹沢溪谷	1
西丹沢登山	4
中川温泉	1
丹沢湖	4
洒水の滝	1
蛭ヶ岳	1
愛川町	5
愛川町	5
清川村	12
清川村	8
宮ヶ瀬	4
その他	18
丹沢	2
温泉	8
梅林	2
沢登り	1
丹沢大山	1
丹沢キャンプ場	1
丹沢温泉	1
直売所	1
檜洞丸	1

このアンケートは、対象のほとんどが市外在住者です。この結果によれば、丹沢大山地域の中で大山が抜群の知名度と人気を誇っていること、鶴巻温泉の人気は、期待する数字ではなかったこと、温泉そのものへの志向は存在することがわかります。

なお、秦野市へ訪れる2大目的は、「登山」と「ハイキング」となっています。（参考資料P19を参照）

(ウ) その他

☆弘法の里湯利用者アンケート結果

(平成20(2008)年7月1日～8月31日実施 鶴巻温泉弘法の里湯利用者 795人)

◎弘法の里湯の利用状況等について

《来館回数》について、「2～10回」が一番多く、次いで「11～50回」、「初めて」となっています。《利用結果》については、「非常に良い」が一番多く、次いで「良い」、「普通」となっています。《利用者の住所》については、「市内」が一番多く、次いで「県内その他」、「横浜市」となっています。

(エ) アンケート結果について

市民は鶴巻温泉に対して、「おおね公園周辺ハイキング」、「日帰り温泉施設の利用」、「弘法山周辺ハイキング」など、自然や健康、癒しを求めていることが分かります。

イメージにおいても、「日帰り入浴ができるまち」、「マンション街のあるまち」、「温泉街の雰囲気が残るまち」など、温泉に係るものが多くなっています。

今後望むことについては、「住民も日常、温泉に入れるまち」、「のんびりした雰囲気のあるまち」、「自然景観が多く残るまち」、「かつての温泉街の賑わいの復活」など、温泉や自然に係るものが多くなっています。

観光客については、本市に対し、「登山」、「ハイキング」、「温泉」など市民と同様に自然や健康、癒しを求めていることが分かります。

また、弘法の里湯の利用者については、市内、市外の割合が1:3となっています。全体として約9割が「良い」という感想をもっており、約8割がリピーターであることから温泉施設として、利用者に満足感を与えていると言えます。

ウ 主な課題

「現状」や「鶴巻温泉に対する市民等の意向」を踏まえ、鶴巻温泉における主な課題を次の3点に整理しました。

(ア) 温泉地としての魅力向上

旅館については、昭和60(1985)年に14軒ありましたが、「安・近・短」志向から「日帰り」が多くなったこと、社用族が減ったこと、バブル経済の崩壊などにより、老舗旅館の経営を圧迫した結果、現在は3軒のみとなっています。日帰り温泉施設として、平成13(2001)年に「弘法の里湯」が営業を開始しましたが、旅館廃業跡地に高層マンションが立ち並び、温泉街としての風情が失われつつあります。

「弘法の里湯」については、揚湯量(20ℓ/分)が充分ではないため、湯水等を考慮すると、湯量を安定的に確保することが課題となっております。また、温泉客からの要望が多い源泉かけ流しについては実施できない状況にあり、源泉かけ流しを行うには、計算上約250ℓ/分の湯量が必要になります。

また、現在の社会経済情勢のもとでは、廃業した旅館を復活させることは困難であるため、既存の温泉施設が一体となり創意工夫し、連携しながらそれぞれの温泉施設の活性化策を検討するとともに、安定的な湯量を確保し、さらに魅力ある温泉活用策を展開し、新たな誘客要素を創出する必要があります。

(イ) 満足度の高い住環境づくり

市民は鶴巻温泉に対し、「おおね公園周辺ハイキング」、「日帰り温泉施設の利用」、「弘法山周辺ハイキング」など、自然や健康、癒しを求めており、今後、望むことについても、「住民も日常、温泉に入れるまち」、「のんびりした雰囲気のあるまち」、「自然景観が多く残るまち」、「かつての温泉街の賑わいの復活」など、温泉や自然に係るものが増えており、鶴巻温泉が単なる居住地だけでなく、温泉や自然を通して、心と体の癒しが得られる住環境として、望まれていることが考えられます。

市民の満足度を向上させるため、心と体の癒しが得られる人とのふれあいや季節感が身近に感じられる環境づくりを推進していく必要があります。

(ウ) 地域ブランドの確立

鶴巻温泉の観光客は、「登山」、「ハイキング」、「温泉」など市民と同様に自然や健康、心の癒しを求め、鶴巻温泉を訪問していると思われます。

鶴巻温泉にあるイベントや地場産品、ハイキングコースなど鶴巻地区全体の観光資源を再検証し、観光客や市民のニーズに合う鶴巻温泉らしさを提供するため、他の地域とは異なる特色付けを行い、鶴巻温泉全体の地域力を向上させる必要があります。

3. 鶴巻温泉北口周辺地区の目指す姿

(1) 将来像

鶴巻地区は大都市に近い距離にあり、日帰りでも宿泊でも気軽に利用できる温泉地です。弘法山公園・吾妻山コースのハイキングコースの起終点にもなっており、豊かな自然や景観も楽しめます。

また、住宅地としても人気が高く、マンション開発などもあり、鶴巻地区の人口は43,844人(平成21(2009)年10月1日現在)となり、平成17(2005)年頃からほぼ同水準にあります。住む人にとって満足度がある程度高い環境を有していると言えます。

鶴巻地区は、温泉地と住宅地の両方の側面がありますが、近年は温泉旅館の廃業も相次ぎ、昭和60(1985)年に14軒あった旅館は、現在(平成21(2009)年)には3軒にまで減少してしまい、市営の日帰り温泉施設を加えても、温泉施設は4軒のみという状況になっています。

本地区が、温泉地としての観光側面を再生することは、多くの市民・事業者・利用者の期待するところですが、廃業した旅館の再生は容易ではなく、今後は住む人にも来訪者にも魅力ある地域ブランド(鶴巻ブランド)を確立させることが、鶴巻の将来像として重要と考えられます。

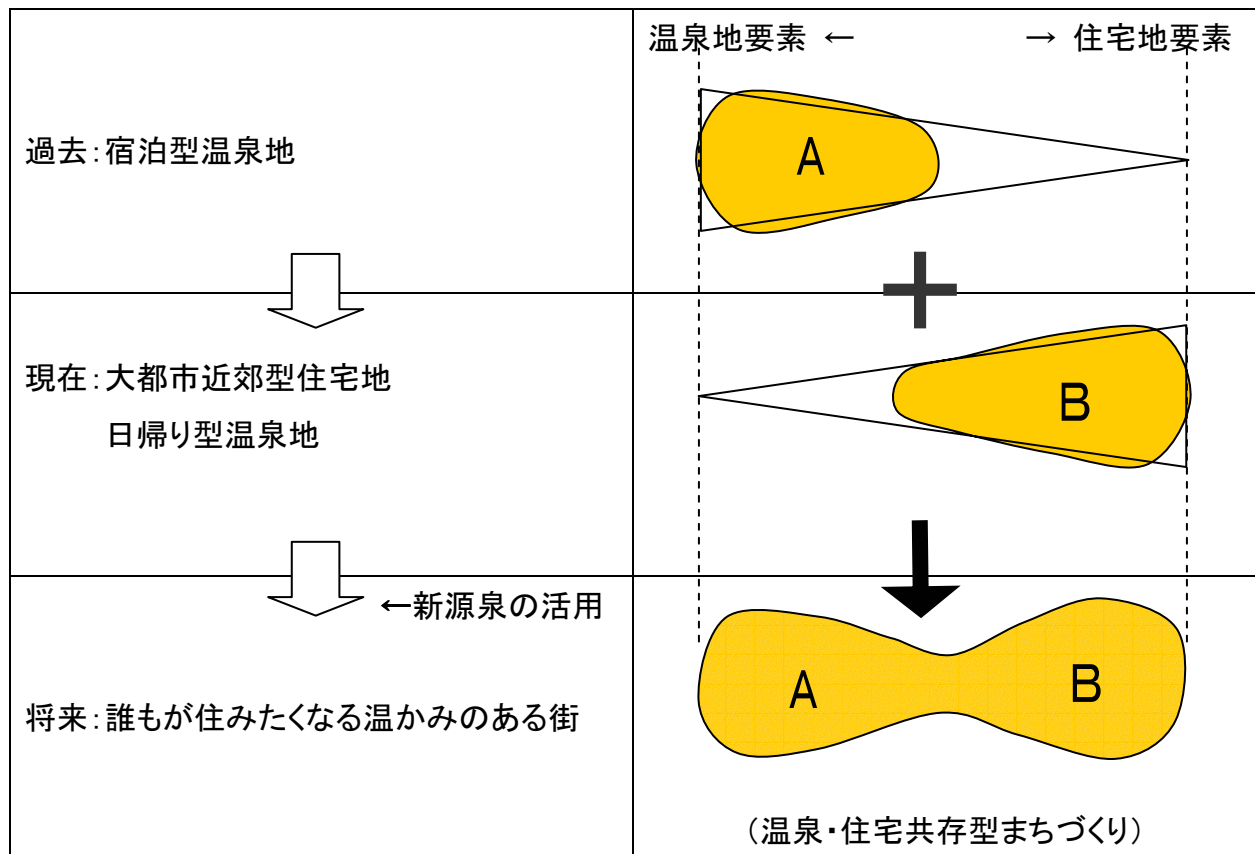


図 3-1 鶴巻地区の過去から将来のまちのあり方

そこで図3-1のように、温泉地の側面(A)と住宅地の側面(B)の両面を育てることで将来の鶴巻地区の目指す姿を設定します。

AとBの要素を重ね合わせ、住む人も訪れる人も誰もが住みたくなる温かみのある街として鶴巻地区を描きます。(温かみのある街とは、温泉を入浴(全身、部分)の用途だけではなく、温熱利用、健康増進、飲泉、源泉湧出の景観、賑わいの景観、温もりの感触などの様々な方法で活用している地域を示しています)

将来像の設定にあたって、

温泉という天然資源のもつ	「触感の温かさ」
住む人がもつ	「気持ちの温かさ」
観光事業者がもつ	「もてなしの温かさ」
市内外の人々が鶴巻地区に対してもつ	「親しみの温かさ」
人々の交流の場がもつ	「にぎわいの温かさ」

など、“温かさ”を本地区のキーワードとして次のような将来像を設定します。

■ 将来像

誰もが住みたくなる温かみのある街
 ~あったかタウン つるまき~

■ 「あったかタウン つるまき」の将来の姿

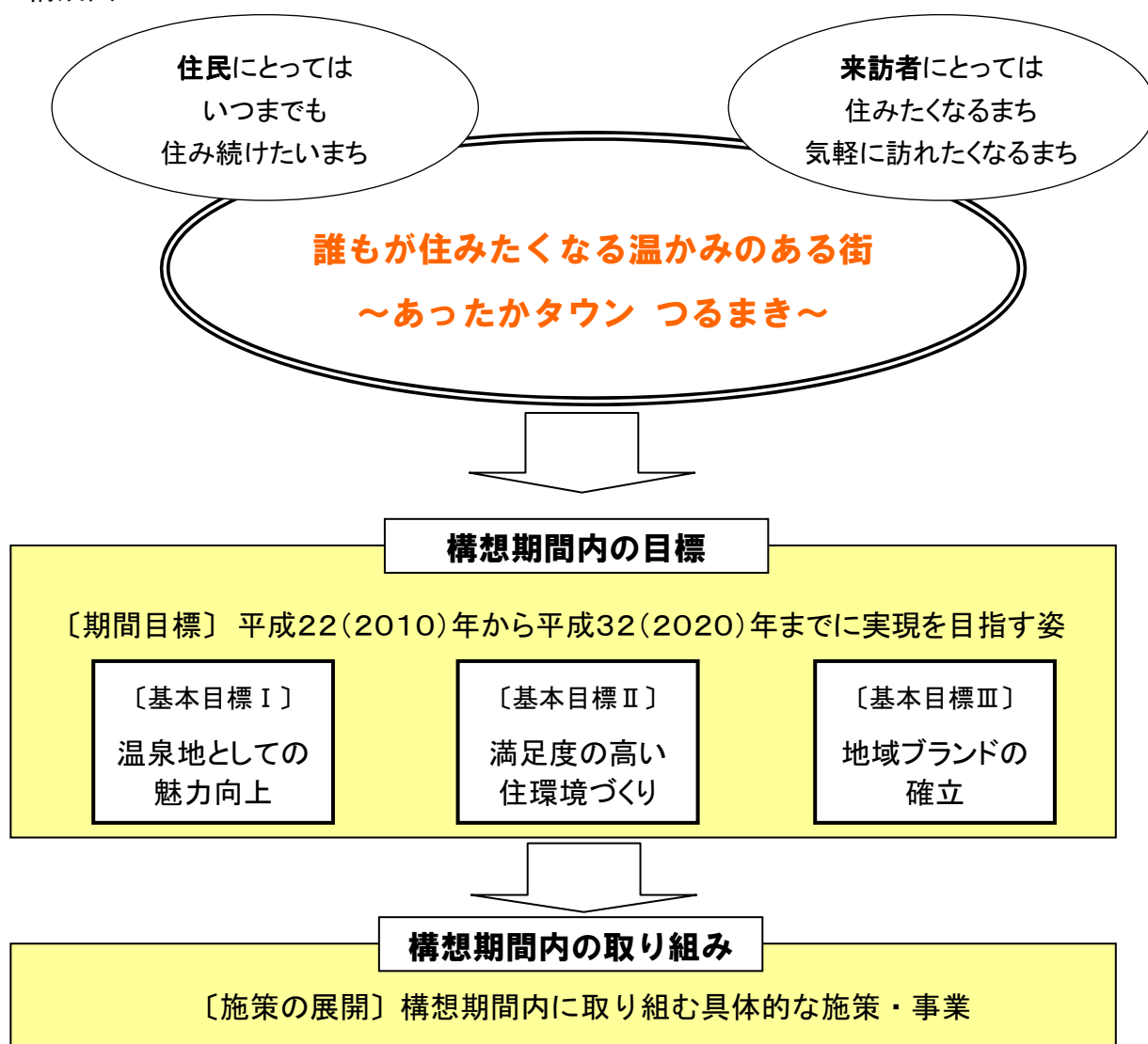
将来の姿-1	源泉が有効に活用され、まちのあたたかみ(魅力)を高めています (触感の温かさ)
将来の姿-2	住民も来訪者も通年いつも変わらない温泉とともに季節折々の自然を楽しんでいます (気持ち及びもてなしの温かさ)
将来の姿-3	住民が安心して生活し、地域に親しみ、いつまでも暮らしたいと思えるあたたかみのあるまちとなっています (市民の親しみの温かさ)
将来の姿-4	手軽に利用できる様々な温泉施設は、市内外の人々からあたたかく支持されています (市内外の人々からの親しみの温かさ)
将来の姿-5	季節のお祭りや温泉施設の来訪者は、あたたかくもてなされています (もてなし及びにぎわいの温かさ)

(2) あったかタウンつるまきの基本目標

将来像の実現に向けて、平成22(2010)年から平成32(2020)年までに実現を目指す姿を「基本目標」と位置づけ、これに基づき施策展開を図ります。

- I. 温泉地としての魅力向上
- II. 満足度の高い住環境づくり
- III. 地域ブランド(鶴巻ブランド)の確立

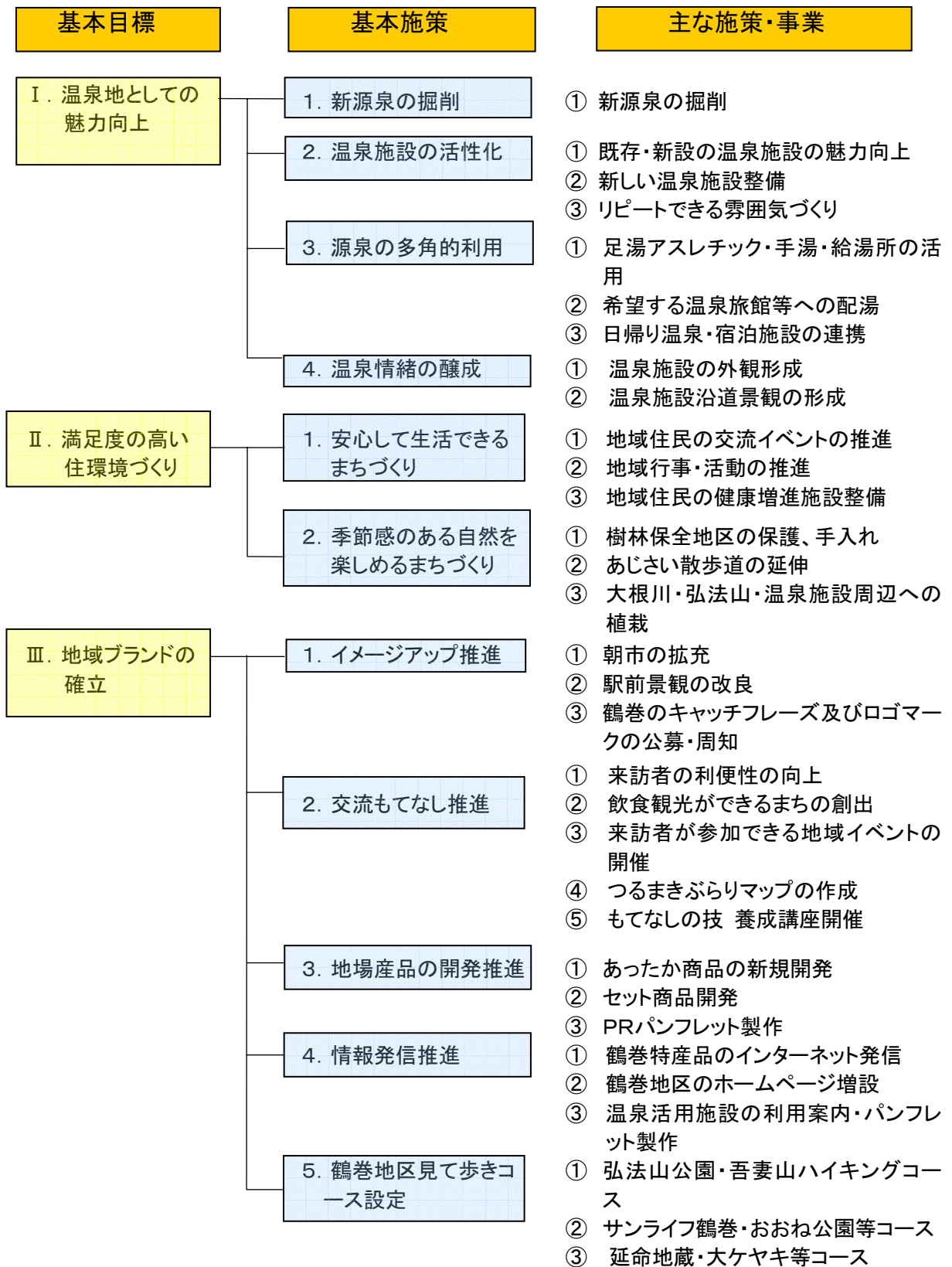
■ 構成図



4. 施策の展開

■ 体系図

【将来像】 誰もが住みたくなる温かみのある街
 ↓
 あったかタウン つるまき
 ↓



基本目標Ⅰ 温泉地としての魅力向上のために

1 新源泉の掘削

① 新源泉掘削の概要について(平成20年9月12日 神奈川県許可)

☆掘削場所

既存源泉から150m以上離すこと、弘法の里湯までの配管距離、駅前に足湯を設置する場合に有利であることなど総合的に検討し、「鶴巻温泉駅広場」が最も有力な候補地となりました。

☆掘削予定深度(1,010m)の決定

地中での水温は、100mで約2℃上昇すると言われており、現在、使用中または使用できる源泉である秦野1号、12号、16号及び17号源泉の4つの源泉を1010mの掘削予定深度により増掘した場合に得られる数値は、41℃から46℃という湯温が期待できます。

以上から、想定値の中で最高湯温である46℃の泉温を確保したいと考えています。なお、掘削終了後の物理検層によりストレーナー位置を決定し、良好な泉質と泉温を確保します。

☆新源泉の想定

- ・泉質 カルシウム・ナトリウム塩化物泉
- ・湯温 46℃
- ・湯量 約350ℓ(毎分)



具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 新源泉の掘削	○	

2 温泉施設の活性化

(1) 基本方針

新しい源泉を活用し、既存及び新設の温泉施設(旅館、日帰り温泉、足湯、給湯所など)を鶴巻地区の新しい魅力とします。

(2) 期待する姿

既存及び新設の温泉施設において、源泉かけ流しが可能となり、新たな利用者が増えています。また、新源泉を活用した足湯アスレチック、手湯、給湯所などが整備されていて、市内外の人々が集まり、にぎわいを見せています。

※実施時期

当面の取組み : 概ね平成27年度までに実現を目指す取組み

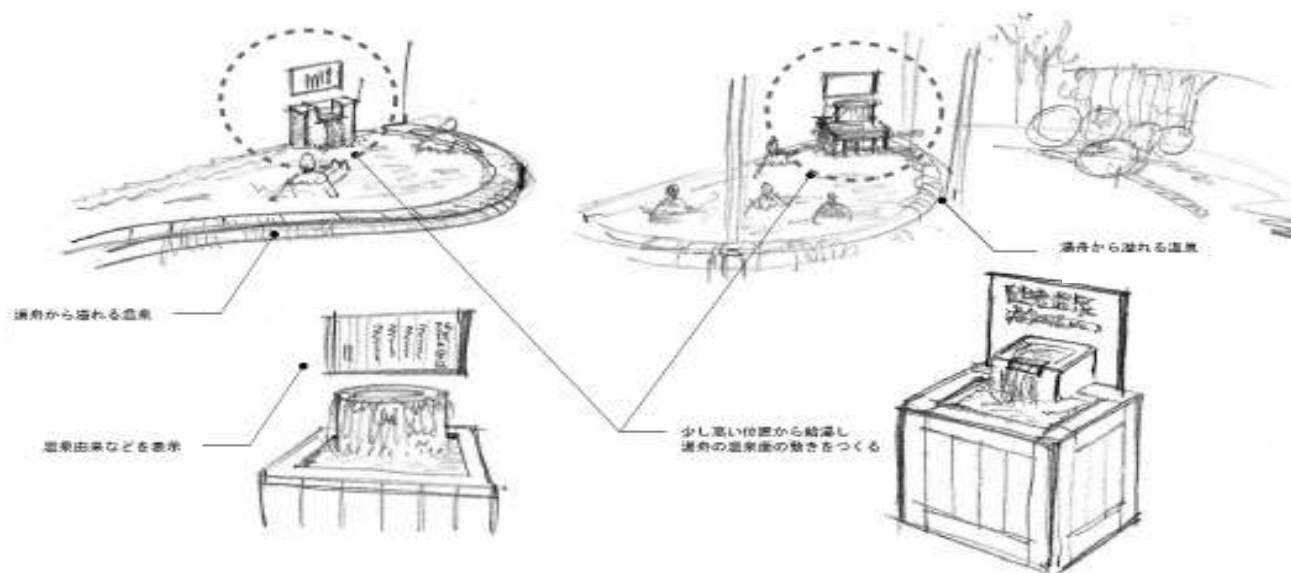
中長期的取組み : 概ね平成32年度までに実現を目指す取組み

(3) 具体的施策

① 既存・新設の温泉施設の魅力向上

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 既存・新設の温泉施設での源泉かけ流し用設備の増設	○	
・ 既存・新設の温泉施設における温浴施設の増設	○	

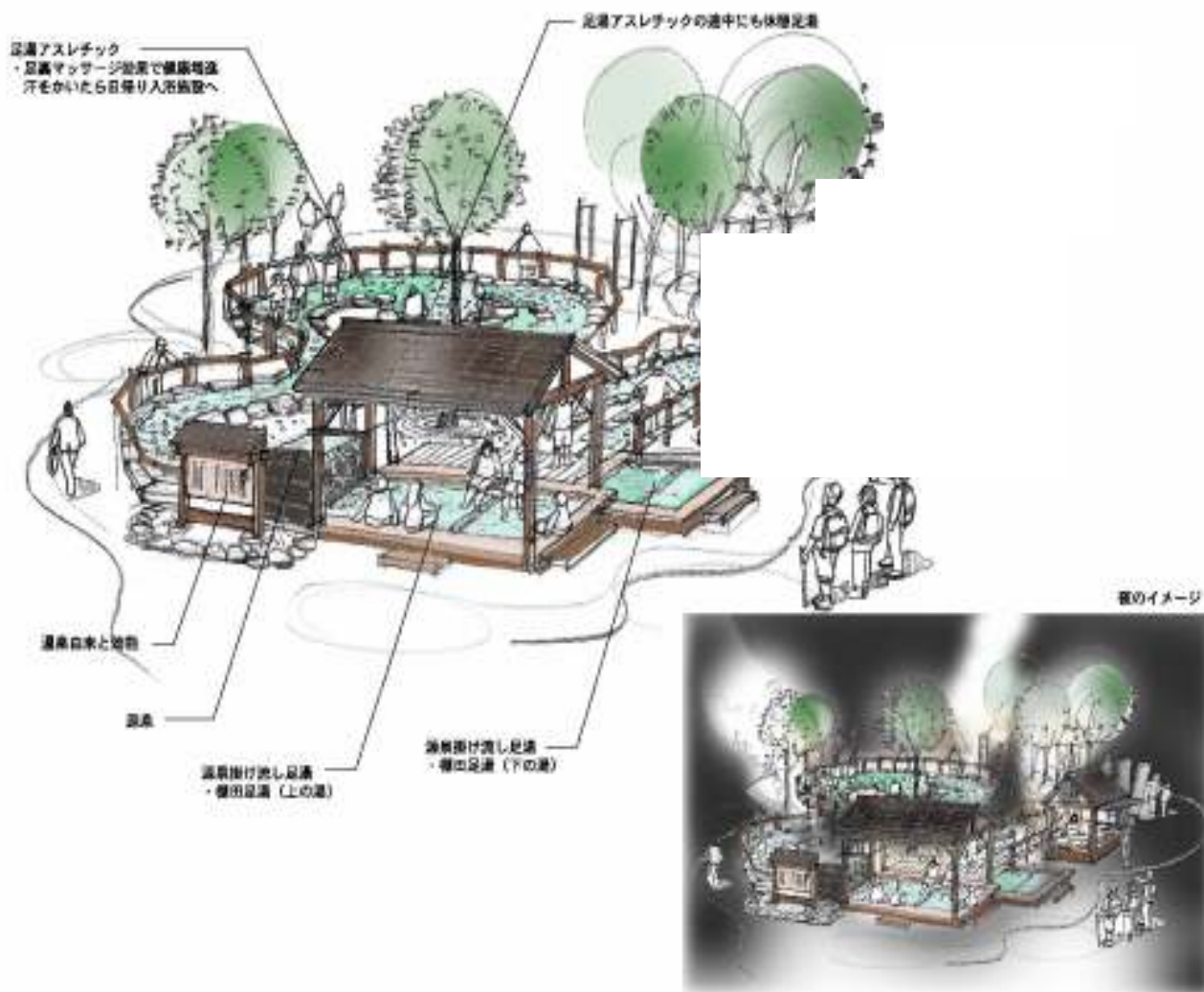
【イメージ】 温泉施設のかげ流し風呂化



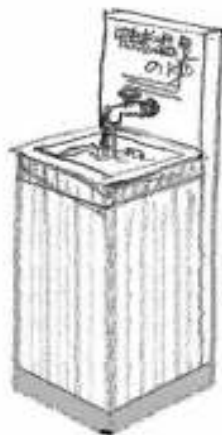
② 新しい温泉施設整備

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
<ul style="list-style-type: none"> 源泉かけ流し足湯 (源泉100%のかけ流しの屋根付き足湯施設) 		○
<ul style="list-style-type: none"> 足湯アスレチック (足湯しながら歩行するもので、床面には足裏マッサージができるように凹凸の形状が施されている。) 		○
<ul style="list-style-type: none"> 手湯 (手洗いなどをするための蛇口式またはオーバーフロー式で温泉を給湯する施設) 	○	
<ul style="list-style-type: none"> 給湯所 (家庭などへの持ち帰り用に設置する有料温泉給湯施設) 	○	

【イメージ】 源泉かけ流し足湯、足湯アスレチック



【イメージ】 手湯、給湯施設



柱口式の給湯（手湯など）



オーバーフロー式の給湯（手湯など）

家庭風呂の温泉気分、温泉持ち帰りカルシウム泉等

● 温泉の持ち帰り・・・自販機型販売機（駐車可能な場所に設置）



③ リポートできる雰囲気づくり

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 温泉施設での有効期限の長い利用手形(回数券や利用に応じてポイントが貯まるカード等)の発行	○	

3 源泉の多角的利用

(1) 基本方針

新しい源泉は可能な範囲で既存施設への追加給湯するとともに、新たな源泉活用をします。

(2) 期待する姿

「弘法の里湯」は、湯量・泉質・温度が向上し、施設の魅力が上がったので利用者等が増加し、駅前の足湯アスレチックや足湯カフェなどの利用者増もあいまって、日帰り利用者数全体が増加しています。日帰り利用者数の増大に伴い、宿泊希望者も増え、その結果、滞在型及び日帰り型の来訪者の総数は現在よりも向上しています。

(3) 具体的施策

① 足湯アスレチック・手湯・給湯所等の活用

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 足湯アスレチック・手湯・給湯所の周囲におけるにぎわいの創設(イベント、ライトアップ、イルミネーション等)		○

② 希望する温泉旅館等への配湯

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 希望する温泉旅館や宅地に可能な範囲での配湯を実施	○	

③ 日帰り施設・宿泊施設の連携

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 温泉施設の回遊手形の発行 (日帰り温泉施設を一定料金で複数箇所利用できる割引券)		○
・ 宿泊施設利用者にも温泉カード等の利用ポイントとして加算(温泉施設等で発行された優待カードまたはポイントカード)	○	

4 温泉情緒の醸成

(1) 基本方針

温泉が湧出し活用されている地区であることを醸し出せるように、温泉施設やその周辺の景観形成を工夫します。

(2) 期待する姿

3軒の温泉旅館と1軒の日帰り温泉施設の周辺を散策するだけで、来訪者は温泉のあるまち(あったかタウンつるまき)にいることを感じられます。

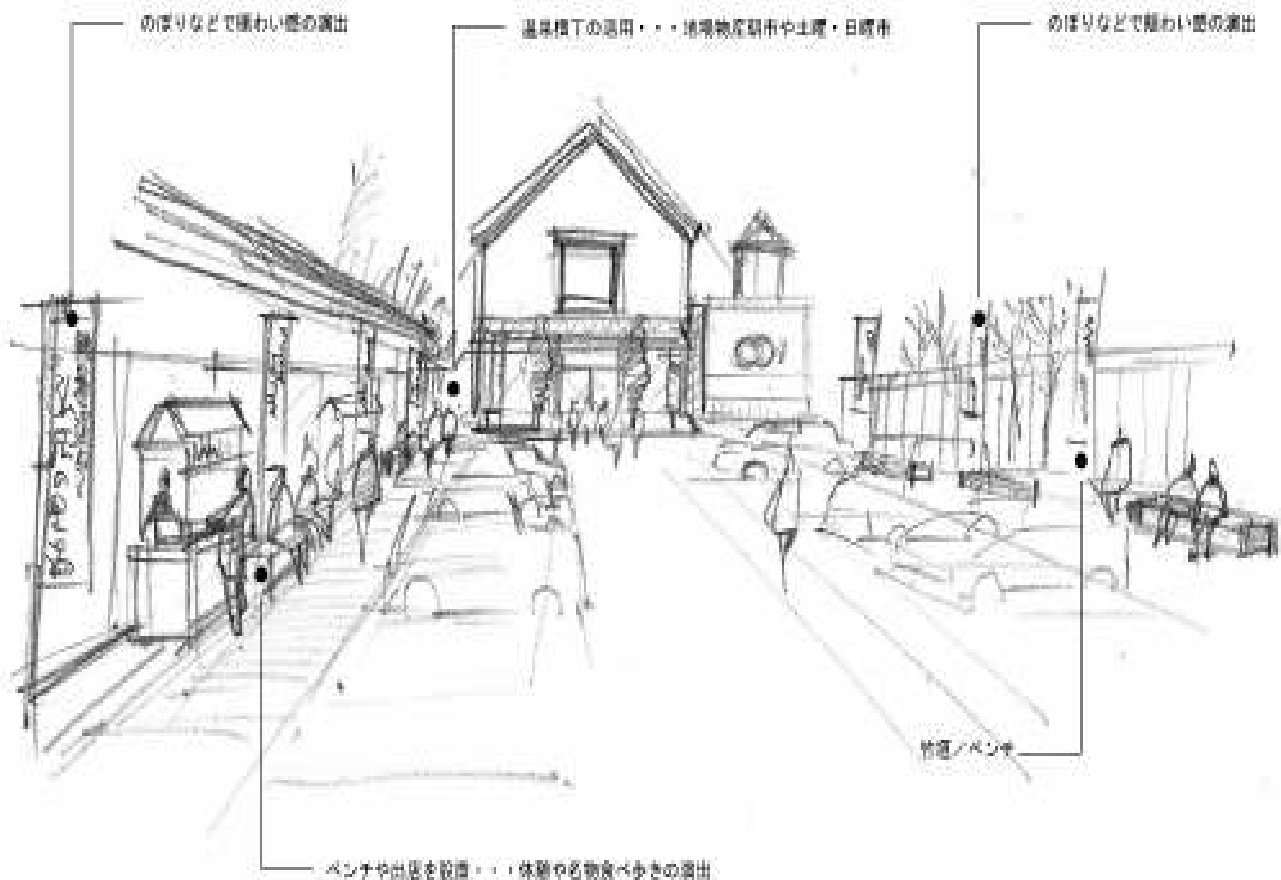
旅館の外観や敷地の外構に用いられる景観要素には、イメージ色の外壁や舗装、樹種、花卉などで統一性と連続性があり、全体として温かみを感じられます

(3) 具体的施策

① 温泉施設の外観形成

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 温泉施設の入口周辺のにぎわい景観創出	○	
・ 温泉施設の前面道路側の植栽と竹垣	○	
・ 温泉施設の建物壁面の改装		○
・ 温泉旅館の入口周辺の和風テラスと大提灯の設置		○
・ 温泉旅館の周縁部の植栽と竹垣		○

【イメージ】 弘法の里湯入口周辺の賑わいの創出



② 温泉施設沿道景観の形成

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 駅前からの沿道の植栽		○
・ 沿道の道路舗装(石畳)、緑化、電線地中化、照明柱の設置		○
・ 民地の板塀		○

基本目標Ⅱ 満足度の高い住環境づくりのために

1 安心して生活できるまちづくり

(1) 基本方針

地域住民は人口の増加によっても治安の不安を感じることなく安心して生活できる環境を望んでいます。そのためには、従来からの地域住民はもとより新しく入居してきた人たちも交流できるまちづくりを進めます。

(2) 期待する姿

鶴巻地区は、従来からの住居住民も新しく入居した住民も、温泉施設・地域活動の拠点施設などでの交流や、地区の祭り・イベントへの参加を通じて、お互いの顔が見えて安心した生活ができるまちとなっています。

(3) 具体的施策

① 地域住民の交流イベントの推進

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 地区のまつり(桜まつり、春まつり、あじさい祭り、ふれあいまつり)への住民参加推進	○	
・ 春・夏・秋のまつりに加え、冬のまつり(イベント)を創設		○

② 地域行事・活動の推進

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ つるまきの日を定め、美化活動や植栽活動に地域住民が自発的に参加する機会を増進		○

③ 地域住民の健康増進施設整備

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 地域住民の健康増進を図るための施設 (例:サイクリングコース、ジョギングコースなど)		○

2 季節感のある自然を楽しめるまちづくり

(1) 基本方針

水と緑と眺めの美しい鶴巻地区では、吾妻山、弘法山の自然からまち中の植栽樹木まで、四季を通じてそれぞれの季節感を楽しめるまちを作ります。

(2) 期待する姿

鶴巻地区を歩くと駅前広場、街路樹や温泉施設周辺、公園などの植栽が季節の彩りを見せ、住民や来訪者をなごませています。

(3) 具体的施策

① 樹林指定地区の保護、手入れ

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 樹林保全地区の保護、手入れ	○	

② あじさいの散歩道の延伸

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ あじさいの散歩道の延伸	○	

③大根川・弘法山・温泉施設周辺への植栽

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 大根川河川敷に桜の苗木を植栽	○	
・ 弘法山公園への桜の補植	○	
・ 弘法の里湯や温泉施設周辺に花木類を植栽		○

基本目標Ⅲ 地域ブランドの確立のために

1 イメージアップ推進

(1) 基本方針

温泉活用地としての鶴巻地区の対外的なイメージを向上させるために、様々な取り組みを行います。

(2) 期待する姿

本地区の温泉、祭り、自然、駅前の景観などから、全体を通じてあたたかさを感じるイメージが定着しています。

(3) 具体的施策

① 朝市の拡充

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 集客をさらに図る朝市の拡充(来訪者向けにも実施)	○	

② 駅前景観の改良

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 温泉の湧くまち(あったかタウン)であることが容易にわかるサイン等の景観形成		○
・ 新たな温泉施設の設置に伴う利用者動線の改良	○	

③ 鶴巻のキャッチフレーズ及びロゴマークの公募・周知

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 「あったかタウンつるまき(仮称)」などのキャッチフレーズとロゴマークの公募・決定	○	
・ 決定したキャッチフレーズとロゴマーク等の周知・活用	○	

2 交流もてなしの推進

(1) 基本方針

来訪者に対し、観光事業者や地域住民があたたかくもてなし、鶴巻地区を十分満喫してもらいます。また、来訪者と地域住民の交流機会をできる限り設けます。

(2) 期待する姿

来訪者に対するもてなしが向上し、鶴巻地区の印象が良くなることで、リピーターが増えています。

秦野市の鶴巻ブランドは、温泉の温かさもさることながら人の心の温かさである、という評判が高くなっています。

また、温泉利用と飲食観光ができるまちとして、他の都市から若者を呼べる飲食店があります。

(3) 具体的施策

① 来訪者の利便性向上

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 鶴巻地区観光案内所の設置		○
・ 観光スポット周遊用レンタサイクルの開設		○

② 飲食観光ができるまちの創出

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 食べ歩きができる仕組みと特色ある料理を開発し、若者が来やすいよう紹介する。		○

③ 来訪者が参加できる地域イベントの開催

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 既存のまつりの中で、来訪者(特に市外の方)が参加しやすい内容の設定		○
・ 地元参加者と来訪者が交流することを主目的としたイベントの開催		○

④ つるまきぶらりマップ(仮称)の作成

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 来訪者向けの鶴巻地区の散策マップの製作・発行	○	

⑤ もてなしの技 養成講座開催

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 観光事業者対象及び一般住民対象のもてなしの技養成講座の開催		○

3 地場産品の開発推進

(1) 基本方針

地場産品を使った食品のお土産や、温泉にちなんで“あたたかさ”をコンセプトにした食品以外のお土産などを開発し、地区内商店街などの販売拠点や遠方への販売ルートを確立します。

(2) 期待する姿

既存のお土産のほか、温泉のぬくもりを感じさせるお土産(食品以外)が、商店街などで直販及び通販の両方の販売方法で向上しています。

温泉の湯量が豊富な場合は、温泉そのものも地場産品として扱われています。

(3) 具体的施策

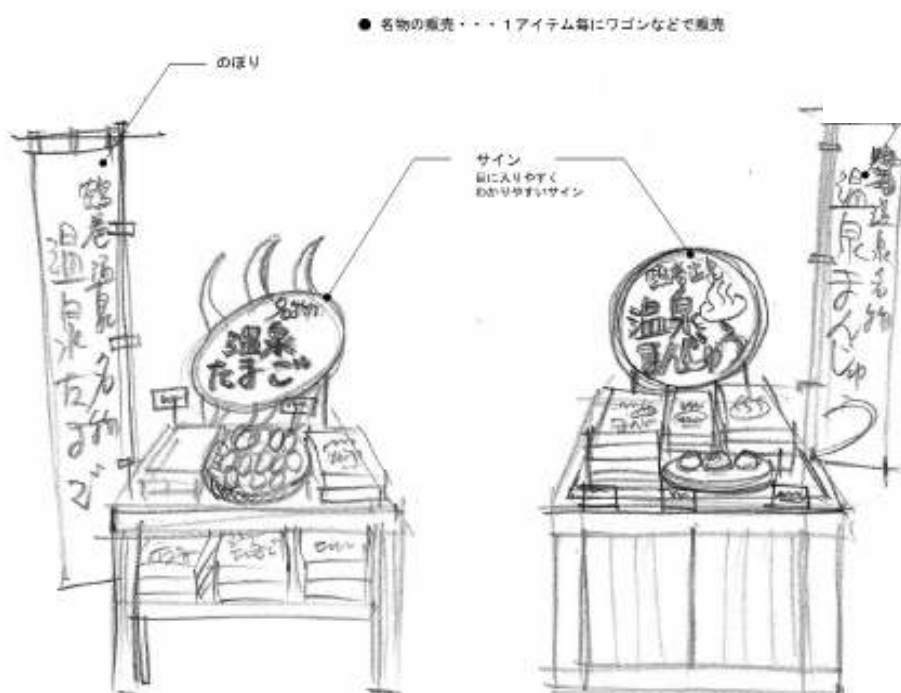
① あったか商品の新規開発

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 温熱を活用した食品等の開発、販売	○	
・ あったか商品(あたたかい商品、あたたかさを感じる商品、あたためる商品、あたたかくなる商品など)の新規商品開発	○	

② セット商品開発

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 複数の商品を組み合わせて、セット商品として販売	○	

【イメージ】 温泉まんじゅう、温泉たまご



③ PRパンフレット製作

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 鶴巻地区のお土産を紹介したPRパンフレット製作	○	

4 情報発信推進

(1) 基本方針

鶴巻地区全体の観光PRを、インターネットや紙媒体(パンフレット等)において行います。

(2) 期待する姿

秦野市全体の公式ホームページの中に「鶴巻地区」の広告ページが常設され、誰もが容易にアクセス出来るようになっていきます。鶴巻の広告ページからは、特産品、イベント、温泉活用施設の紹介などが見られ、優待券などの入手も出来ます。

(3) 具体的施策

① 鶴巻特産品のインターネット発信

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 特産品の紹介と購入手続き可能なWeb作成	○	

② 鶴巻地区のホームページ増設

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 市役所のホームページに鶴巻温泉の広告ページを設定	○	

③ 温泉活用施設の利用案内・パンフレット製作

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 温泉活用施設めぐりパンフレット(通年型)製作	○	
・ 温泉活用施設めぐりパンフレット(季節型)製作	○	
・ 温泉利用スタンプラリーの実施		○

5 鶴巻地区見て歩きコースの設定（起終点は源泉周辺）

(1) 基本方針

観光地としての鶴巻温泉を宣伝するため、鶴巻地区の観光資源を活用した見て歩きコースを設定します。

(2) 期待する姿

鶴巻地区の観光資源を活用した見て歩きコースが設定され、自然、健康、癒し、歴史、文化など、来訪者が鶴巻温泉を満喫できるようになっています。

(3) 具体的施策

①鶴巻地区見て歩きコースの設定

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 見て歩きコースの設定及び紹介	○	

延命地蔵・大ケヤキ・鶴巻あじさい散歩道・石座神社コース



延命地蔵



大ケヤキ



鶴巻あじさい散歩道



石座神社

サンライフ鶴巻・おおね公園・温泉施設(足湯含む)コース



サンライフ鶴巻



おおね公園(じゃぶじゃぶ池・温水プール棟)





②既存コースの充実

具体の取り組み	実施時期	
	当面の 取組み	中長期的 取組み
・ 既存コースの充実及び紹介	○	

弘法山公園・吾妻山ハイキングコース(歩行距離:約7.4km 歩行時間:約2時間10分)



5. 構想の推進に向けて

(1) 構想を実現するための方針

《方針1》 地域・事業者・行政の役割分担及び連携による協力体制の構築

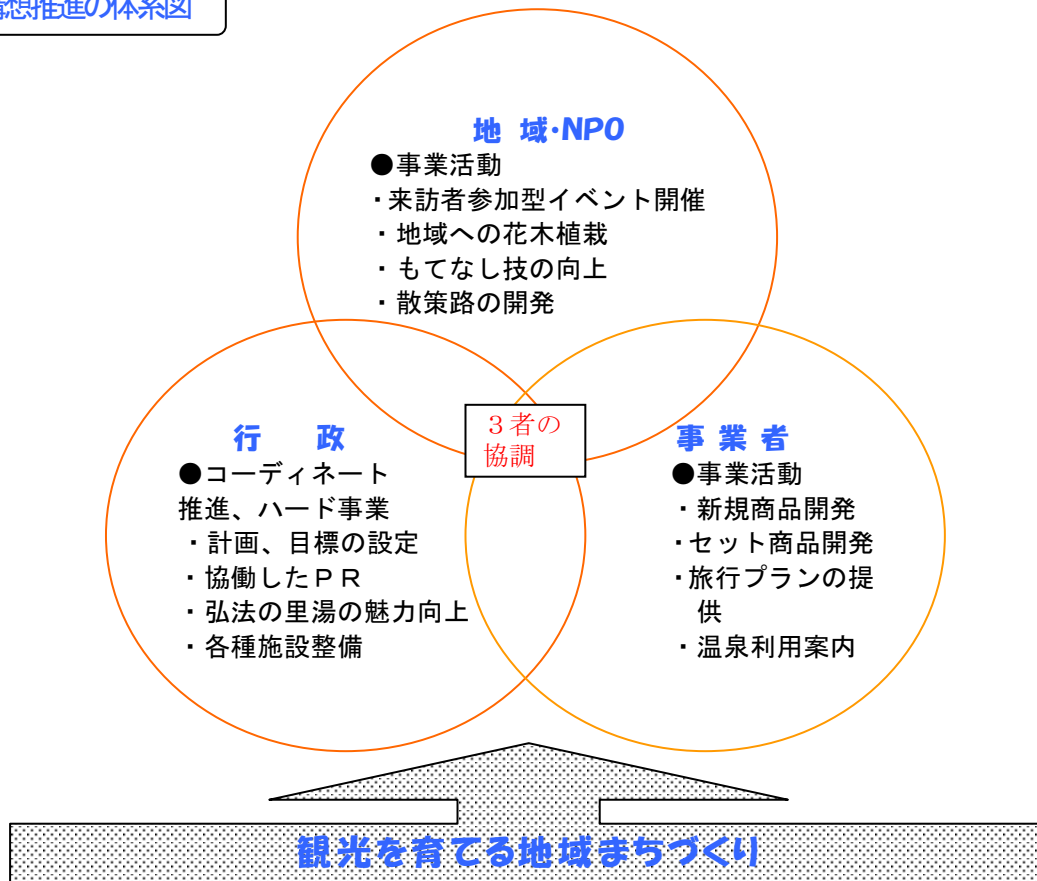
この構想の将来像である「誰もが住みたくなる温かみのある街 ～あったかタウン つるまき～」を実現するためには、地域住民の誰もが、それぞれの置かれている立場や生活環境の中で、自主的かつ気軽に参加でき、かつ、誇りをもって再活性化に取り組むことのできるよう市民力、地域力を結集する必要があります。また、観光は「総合産業」といわれるように、裾野の広い産業であり、「人」の移動、滞在、ふれあいや「物」の生産、流通、消費など、さまざまな分野の人々が介在します。

このため、新源泉確保をはじめとした様々な取組みによる波及効果を最大限に発揮させるため、これに関わるすべての人々がそれぞれの役割と責任を認識しながら、お互いに協力し合って取り組むことが必要です。

さらには、鶴巻地区の観光振興をリードしていく人材育成を図り、商店街や交通機関・旅行会社などの事業者、自治会、NPO等の市民団体とのネットワークを構築し、最大限このネットワークを活用することが必要です。

このため、次の図のような体制を構築し、構想の実現を目指します。

構想推進の体系図



《方針2》南口まちづくりとの連携

市では、鶴巻温泉駅周辺整備には、「鶴巻温泉駅南口周辺整備構想」、「北口の温泉街の活性化構想」、「駅舎改築に伴う自由通路整備構想」の3つの『まちづくり構想』を定めて、総合的なまちづくり施策を展開しようとしています。

このたび、まとめた「鶴巻温泉街再活性化構想」は、この中のひとつであり、全体として鶴巻地区まちづくりを推進していこうとするものです。

この構想の中では、鶴巻温泉街に焦点を当てながらも、北口だけでなく、周辺地域として鶴巻地区全体をとらえています。施策の展開に当たっても、鶴巻地区全体の中でバランスのとれた一体感のあるものになるよう進めていきます。

《方針3》観光の広域化への対応

国では観光立国推進基本法を、神奈川県は、観光振興基本条例を制定しましたが、本市もこれに対応していくため、今後も近隣市町村と協調した観光コースの設定など、来訪者に回遊性をもたせる体制づくりに努めます。

(2) 構想の具体化及び進行管理

- ア 新源泉の湯温、湯量等が確定後、今後、具体的に検討する内容については、学識経験者等を含め、地域と話し合いながら進めていきます。
- イ 構想の推進を図るため、定期的に構想の進行状況を把握し、着実かつ充実した構想実施ができるように努めます。また、新総合計画に合わせた見直し、さらには、必要に応じた見直しを行い、弾力的なスタンスで、将来像の実現を図るとともに、実施した事業については、効果の検証を行います。
- ウ 掘削、配管工事に関わる経費は約2億3千万円、維持管理経費は年間約250万円を想定します。なお、これはあくまでも概算事業費であり、今後、詳細に積算した場合、各事業費は増減します。